

10

あまり知られていないシーボルトの業績 ——音楽を中心に

由比 文顕, 中山 茂春

池友会福岡和白病院

シーボルトは日本に最初にピアノを持ち込んだことで有名であるが編曲をしたことは余り知られていない。演者は音楽を中心としたシーボルトの業績について報告する。シーボルトは20歳年上の作曲家キュフナーにピアノを習った。キュフナー一家は代々宮廷作曲家でキュフナーのギター練習曲は現在も使用されている。ケンペルの日本誌に感銘を受けたシーボルトはオランダのハーグに待機中ロンドン製のピアノを購入した。ロッテルダムを立ちバダヴィアに着。1823年8月出島に入港した。長崎に出入りする船乗り達には当時中国で流行の月琴を演奏していた。シーボルトが優れた医者であったことは知れ渡りシーボルトの希望もあったが植林家で診療・治療を行うことになった。そこでお滝さんと呼ばれていたコンニャク屋の娘と出会う。鳴滝塾を始めると多くの弟子に論文のテーマを与えた。美馬順三には石坂宗哲の針灸書をオランダ語に翻訳させた。出島に日本人女性が住むことはご法度であったが長崎奉行が遊郭に頼み込みシーボルトとお滝さんは結婚した。江戸参府の際にはピアノの移送を長州藩お抱え商人の熊谷義比に依頼した。江戸参府には薬剤師ピュルゲルのほか多くの弟子が同行している。脳卒中後の麻痺や通風・リュウマチで温泉に入ると嬉野温泉で弟子が説明した。鍋島藩主の殿様湯である武雄温泉にも入っているが現在そこにあるのが巨樹の会の新武雄病院である。長崎街道を小倉まで歩き小倉藩主の別荘があった大里より下関海峡を渡った。大里の近くに現在あるのが池友会の新小文字病院である。下関では安徳天皇陵の近くにある長州藩家老の屋敷に数日間滞在し弟子らの学位論文審査が行われた。この屋敷の近くに現在あるのが巨樹の会の下関リハビリテーション病院である。下関より室津まで航路で進み京都に滞在中に薬品応手録が届く。熱田神宮で本草学者水谷豊文よりベラドンナに類似した植物の報告を受ける。川崎を経て品川で幕府医官桂川甫賢の出迎えを受けた。近くに現在あるのが東京巨樹の会の東京品川病院である。江戸長崎屋の二階にピアノを搬入した。そこで嘗てオランダ商館長ヘンミは三味線の音が好きだったと聞く。島津重豪にはピアノで三拍子の曲を弾きワルツを踊った。桂川甫賢に頼み石坂宗哲に針灸を学ぶ。4月27日江戸市中を散歩した際に江戸で流行していたカッポレ節を聞いた可能性がある。江戸参府の帰途大坂で歌舞伎妹背婦女庭訓を観劇した。その筋立ては後に小説家アルフォンソド・ドーデに伝えられた。1827年5月娘イネが生まれるとお滝さんは子守唄を歌っていたらしい。弟子二宮敬作に命じ富士山頂の気圧を測定し富士山の高さを算出した。1828年台風通過時に気圧が14時間で1010mbから960mbに下降したことを記録している。ピアノを熊谷義比に譲りバタヴィアに戻ると日本~清~バタヴィアの貿易商人であった郭成章を知り日本語教師として雇用しオランダに連れて行った。オランダでキュフナーの力を借り「日本の旋律」(Japanische Melodien)という7曲より成るピアノ曲集をオランダのライデンで出版した。

第一曲；Andante con moto. 第二曲；Poco lento へアノコミタサニコレコレワトサ ポーズニカッポレと歌詞が付されている。第三曲；Andante con moto. 第四曲；Vivace con fuoco. 第五曲；Allegro. 第六曲；Lento quasi adagio ~清国月琴の曲と解説がある。第七曲；Andante con moto.